市内高校生インターハイ出場

９人が予選勝ち抜く

２月６日（金）～１０日（火）に行われた全国高等学校総合体育大会第 64 回全国高等学校スキー大会に、滋賀県予選を勝ち抜いた次の９人が出場されました。
（市民スポーツ課）

※敬称略

出場選手	高校名	学年	出場種目
古谷　俊也	高島高校	2	男子ジャイアント・スラローム
江黒　凪沙	高島高校	1	女子ジャイアント・スラローム
			女子スラローム
坂口　未祐	高島高校	1	女子ジャイアント・スラローム
			女子スラローム
河原田政吾	高島高校	2	男子クロスカントリー10ｋｍクラシカル
			男子クロスカントリー10ｋｍフリー
白井　優希	安曇川高校	2	男子クロスカントリー10ｋｍクラシカル
			男子クロスカントリー10ｋｍフリー
齊藤　颯	高島高校	1	男子クロスカントリー10ｋｍクラシカル
			男子クロスカントリー10ｋｍフリー
福田　樹	高島高校	1	男子クロスカントリー10ｋｍクラシカル
			男子クロスカントリー10ｋｍフリー
中原さくら	安曇川高校	2	女子クロスカントリー５ｋｍクラシカル
			女子クロスカントリー５ｋｍフリー
山田　瑞季	高島高校	2	女子クロスカントリー５ｋｍクラシカル
			女子クロスカントリー５ｋｍフリー

高島市国際協会　国際交流講座＠今津東小

異文化にふれる

韓国・ブラジルを学習

１月 27 日（火）、高島市国際協会の国際交流講座として、今津東小学校の６年生が韓国とブラジルについて学びました。韓国については坂口直美さん、ブラジルについてはホドリゴさんが講師となって、それぞれの国の文化、くらしについてのお話をされました。子どもたちは、日本との違いを知って関心を持ち、「行ってみたい」「もっと知りたい」と感じたようです。協会では、今後もこのような機会を持ちたいと思います。
（市民協働課）

パンボク（韓服）を着て

積極的に参加する生徒

興味津々！　子どもたちの声

（韓国） お椀を持ち上げてはいけないという食事の作法、「とうがらし」は日本から伝わった？！

びっくり！

（ブラジル） 真夏のクリスマス、12 時間の時差、「てんぷら」がポルトガル語！

またまたびっくり!!

湖西中で深溝饗信社が雅楽の授業

伝統音楽に親しむ

深溝饗信社のメンバーから龍笛の吹き方を教わる生徒ら

１月 29 日（木）、湖西中学校の１年生　約１００人を対象に雅楽の授業が行われました。地元の雅楽保存会　深溝饗信社の石田哲楽長らメンバー７人が講師となり、生徒たちに雅楽の演奏を披露したり、楽器の指導をしたりしました。

深溝饗信社は、明治時代に深溝の楽人として創立し、その後、後継者不足から昭和 58 年に途切れましたが、平成９年に復活。雅楽の演奏や保存活動をされ、湖西中学校での雅楽授業は 15 年前から続けられています。

生徒たちは、龍笛、笙、篳篥などの楽器を体験し、「難しいけれど、吹けるとおもしろい」などの声も聞こえ、伝統音楽を楽しんだ様子でした。
（秘書広報課）

狩衣装束も体験

あなたの職場でこんなことないですか？

セクシャル・ハラスメント（セクハラ）は、職場などで性的なことを言われたり、されたり、させられたりする、いじめや嫌がらせです。セクハラは男性から女性だけでなく、女性から男性、同性同士などさまざまなパターンがあります。

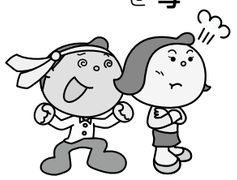
これはセクハラです！

その１ スリーサイズなど**身体的特徴**を話題にする。

その２ **「男のくせに**根性がない」、**「女には**仕事を任せられない」などと発言する。

その３ 「お坊ちゃん」「お嬢ちゃん」「おじさん」「おばさん」などと**人格を認めない**ような呼び方をする。

その４ 雑誌などの**卑猥な写真・記事**をわざと見せたり、読んだりする。



しっかり点検し、問題解決を！！

その５ 食事やデートに**しつこく誘う**。

その６ **性的な内容**の電話をかけたり、メールを送る。

その７ 女性にお茶くみ、掃除を**強要する**。

その８ 酒席で、**お酌を強要**する。

セクハラを受けたときは、**はっきりと拒絶し、会社の窓口に相談**しましょう！

県労働局「雇用均等室」（電話 077-523-1190）にも相談窓口があります。

問 市民協働課　☎（25）8526

ふるさとを未来へ

この春、マキノ北小と今津西小がその長い歴史に幕を閉じ、閉校を迎えます。

少子高齢化や人口減少の影響により、子どもたちに十分な教育環境を提供できなくなったことがその理由で、４月からはそれぞれマキノ東小、今津東小に統合されることになります。過小規模校には、地域で子どもの成長を見守る、家族のような時間と温かさがあり、また一方、多くの子どもたちが通う学校には、多様な刺激や個性の中で、互いに切磋琢磨し合いながら、相手や自分を尊重することを学ぶ多くの機会があることでしょう。どちらも大切な経験です。

これから社会に巣立つ子どもたちは、私たちがまだ見たことも経験したこともない変化の波に、将来さらされるかもしれません。高島の子どもたちには、そうした変化に対応するしなやかな強さを身につけ、自らの力で新しい将来を切り拓いてほしいと願うとともに、生きていく上で時に疲れや諦めを感じる時には、子ども時代の豊かな時間や慣れ親しんだふるさとの情景が、必ず活力を呼び戻してくれることを忘れないでほしいと思います。

ここに暮らす私たちは、時に不便さも感じ、ふるさと高島の価値を日常生活で意識することがないかもしれません。しかしその価値は、高島を外から見る方には大きな魅力と映り、この地に人を呼び込むきっかけにもなっています。

全国的な人口減少時代、ふるさと高島を未来に引き継ぐため、この地に生まれ育った人、この地に魅かれた人が一緒になって高島の魅力を再開拓し、これからの時代に合う「新しいふるさと」の形を考えていければと思います。

福井正明

市長雑記